第 20 回伊那新校再編実施計画懇話会

日時：令和７年５月 13 日（火）
18 時～19 時 30 分
会場：長野県伊那合同庁舎　講堂

＜次 第＞

１ 開　会

２ 県教育委員会あいさつ

３ 新構成員紹介

４ 会議事項

（１）第 19 回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめ

（２）校名選考について

（３）開校に向けた検討事項の進捗状況について

５ その他

＜次回の予定＞

【日時】　令和７年 11 月～12 月（予定）

【場所】　（未定）

【内容】　・校名選考について

・開校に向けた検討事項の進捗状況の報告

・施設整備の進捗状況について

６ 閉　会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

第20回　伊那新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

◎印：座長　○印：新規　　（敬称略）

	区分	氏名	所属等
1	自治体	伊藤　徹	伊那市　副市長
2		片桐　健	飯島町教育委員会　教育長
3		◎本多　俊夫	駒ヶ根市教育委員会　教育長
4		田中　章	上伊那広域連合　前事務局長
5		唐澤　直樹	上伊那広域連合　事務局長
6	産業界	田畑　和輝	伊那商工会議所　監事
7		春日　俊也	駒ヶ根商工会議所　副会頭
8		黒河内　貴	株式会社仙醸　代表取締役社長
9	学識経験者	片山　茂	信州大学農学部　教授
10		髙橋　百合子	長野県看護大学　准教授
11	地域	河野　宏	一般社団法人上伊那医師会
12		中山　佳代	元上伊那地域の高校の将来像を考える協議会　委員
13		○池上　安雄	上伊那地域振興局　局長
14	同窓会	山田　益	伊那北高等学校同窓会　運営委員会委員長
15		下島　典子	伊那弥生ケ丘高等学校同窓会　会長
16	ＰＴＡ	○大住　真希	伊那北高等学校ＰＴＡ　副会長
17		○藤澤　真由子	伊那弥生ケ丘高等学校ＰＴＡ　副会長
18		浅川　直矢	上伊那ＰＴＡ連合会　参与
19	学校関係者	○田中　智之	上伊那小学校長会　会長（伊那市立伊那東小学校長）
20		○田中　幸一	上伊那中学校長会　会長（伊那市立高遠中学校長）
21		小池　景子	伊那養護学校　校長
22	統合校関係者	池上　裕汰	伊那北高等学校　生徒代表
23		水上　ちはや	伊那北高等学校　生徒代表
24		宮下　賢三	伊那弥生ケ丘高等学校　生徒代表
25		阿部　翔浬	伊那弥生ケ丘高等学校　生徒代表
26		○山岸　明	伊那北高等学校　校長
27		松村　真一	伊那北高等学校　教職員
28		○佐々木　俊秀	伊那弥生ケ丘高等学校　校長
29		唐澤　功	伊那弥生ケ丘高等学校　教職員

【事務局】

伊那北高等学校	
千葉　亮	教頭・事務局長
松村　真一	
倉石　典広	
○朝倉　三好	
桐生　祐治	

伊那弥生ケ丘高等学校	
○犬飼　健一	教頭・副事務局長
唐澤　功	
春日　雅博	
常田　真由美	
瀧澤　洋貴	ＩＣＴ担当

【県教育委員会】

高校再編推進室	
原　多恵子	主幹指導主事
高橋　正俊	主任指導主事
○荻原　洋平	主任指導主事
○米澤　和真	主事

学びの改革支援課	
中谷　幸裕	指導主事

第 19 回　伊那新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

<table>
<tr><td>日　時</td><td colspan="3">令和７年２月３日（月）午後６時から午後７時 40 分</td></tr>
<tr><td>場　所</td><td colspan="3">長野県伊那合同庁舎　講堂</td></tr>
<tr><td>出　席
（敬称略）</td><td colspan="3">伊藤 徹、片桐 健、本多 俊夫、田中 章、唐澤 直樹、田畑 和輝、春日 俊也、
黒河内 貴、片山 茂、河野 宏、中山 佳代、中谷 俊禎(代理)、山田 益、
下島 典子、小島 亜矢子、伊澤 朋和、浅川 直矢、田中 智之(代理)、
田中 幸一(代理)、小池 景子、髙木 美華、宮下 賢三、阿部 翔浬、埋橋 浩、
松村 真一、松村 明、唐澤 功　（以上 27 名）</td></tr>
<tr><td>欠　席
（敬称略）</td><td>髙橋 百合子、布山 澄、下島 弘子、桐山 清一、
池上 裕汰、水上 ちはや　（以上６名）</td><td>傍聴</td><td>８名、報道６社、
オンライン３名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事務局</td><td>伊那北高校</td><td colspan="2">千葉教頭、松村教諭、倉石教諭、斎藤教諭</td></tr>
<tr><td>伊那弥生ケ丘高校</td><td colspan="2">佐々木教頭、唐澤教諭、竹松教諭、春日教諭、常田教諭、
瀧澤教諭</td></tr>
<tr><td>県教育委員会</td><td colspan="2">佐野高校再編推進室長、高橋主任指導主事、内山主任指導主事、
塩川主査、中谷指導主事</td></tr>
<tr><td>会議事項</td><td colspan="3">（１）第 18 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ
（２）地域説明会報告
（３）視察報告
（４）今後のスケジュールについて</td></tr>
<tr><td>当日資料</td><td colspan="3">・次第、開催要綱、構成員名簿、第 18 回懇話会まとめ、構成員アンケートまとめ、視察報告、開校までのスケジュール（案）、参考資料（小諸新校校名募集について）
・地域説明会報告資料、地域説明会リーフレット
・会場配席図</td></tr>
</table>

主な内容(・意見、質問等　➡県教委　⇒生徒　→高校)

○会議事項

（１）第 18 回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめ

第 18 回懇話会について説明

➡これまでのご意見を踏まえて今後の懇話会では「これまでの懇話会での確認事項のまとめ」を作成し、「各小部会での検討内容の進捗状況の報告」を行う。【質問、意見なし】

（２）地域説明会報告

令和６年 11 月から 12 月に４回開催した地域説明会の報告

➡来年度以降も地域説明会を開催する予定。【質問、意見なし】

（３）視察報告

ICT 教育環境の視察報告（視察日：12 月 17 日、視察先：芝国際中学校・高等学校）

・校舎面積に対する生徒一人当たりの床面積の想定があれば教えてほしい。

➡基本計画・基本設計の段階では 13～15 ㎡/人程度で計画。今後の新たな学びを展開する上で適当な面積と考えている。

（４）今後のスケジュールについて

○開校までの全体スケジュールについて説明

・これからも小中学生やその保護者対象の説明会を開催してほしい。

・検討事項が多いので、優先順位を決めて進めた方がよい。

・伊那新校では、伊那北高校と伊那弥生ケ丘高校の普通科や理数科の偏差値は変わるのか。小中学生の保護者は、新校の受験レベルをとても心配している。学校側としては、学びのレベルは歴史とともに育っていくという認識かもしれないが、不確定なところに進学させるよりも、歴史や学びのレベルが明確になっている学校に進学させたいと考える保護者がいることを理解しておかないと保護者の心に響く学校にはならない。

➡地域説明会でも保護者に説明したが、県教育委員会として偏差値は考えていない。生徒本人の興味や関心、希望する進路に合わせた科目を選択して、探究的な学びを深め、可能性を拓き、夢の実現へ果敢に挑戦できるような学校にしていきたい。

・特色学科について決まっていることがあれば教えてほしい。

➡特色学科については、これから検討していく。

・制服について、伊那新校ではフレキシブルに考えるのであれば、制服を強制するのではなく調整ができるような規制が必要。

➡制服は受注などがあるので、早急に検討して決めなければいけないと認識している。

・大学でも探究学習には力を入れている。県外の高校を巡り、話を聞くと、探究学習に対する考え方は割れている。結局、難関大学に進学させるために基礎学力をしっかり身につけさせたいと考えている学校もある。新校が最難関大学や医学科を目指すのであれば、具体的なモデルケースを示す必要がある。

→今は、学びの形が変わってきている。基礎学力という知識・技能の上に、探究学習をとおして実践的な学力を身につけていく。基礎学力も探究学習も両方大事である。

・保護者の多くは、学びの形が変わってきているということをまだ分かっていないと思う。偏差値主義という昔ながらの考え方を、伊那新校から変えていってほしい。学力も大事だが、「やりたい」「やってみたい」という気持ちが大事であることを忘れないでほしい。

・伊那新校と赤穂総合学科新校について、カリキュラム編成などを明確に示して、偏差値ではなく生徒たちが目的をもって進学できるように検討を進めてほしい。

〇校名検討について小諸新校の選考過程を例に挙げて説明

・教育委員会定例会での校名決定から県議会での正式決定まで、期間が長い理由を教えてほしい。

➡県議会での校名変更の条例改定は、これまで開校の前年度の秋に行っている。小諸新校の場合は、校名を広報活動に使用していくために、県教育委員会定例会で早めに決定をした。

・小諸新校の校名募集の応募件数などを教えてほしい。

➡応募総数は 211 件の中から要項にそって重複などを除き、109 件が１次候補となった。この中から懇話会構成員による１次投票を行い、１次選考で７件に絞り、２次投票を行った。また、この２次投票とは別に、両校の生徒や学校職員の投票結果も参考にして、最終的に「小諸義塾」を懇話会の最終候補とした。

・両校の在校生にも校名募集をかけてほしい。

・伊那新校の募集の観点は何を優先にするのか。

➡募集要項は、これまでに検討した再編実施基本計画や学びのイメージを取り入れながらこれから作成する。

・もしも、小諸義塾のように校名の画数が多くなったら、高校生はどう思うか。

⇒校名の画数が多いことは、受験などでは重要なことではない。

⇒これから続いていく大事な校名なので、多くの人に興味を持ってもらい、多くの候補から選ぶことが大事。また、応募方法はメールやＦＡＸだけでなく、子供など若い人からも応募しやすい方法もあるとよい。

その他

【次回懇話会】

・日時　令和７年５月頃（予定）

・会場（調整中）

・内容　校名検討について、開校に向けた進捗状況の報告

伊那新校再編実施計画懇話会の開催状況

高校教育課高校再編推進室

※各回の資料及び会議概要は県教育委員会ホームページに掲載されています。

回	開催日	内　　容
1	令和２年 11 月 26 日	・座長選出 ・「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」「再編・整備計画【一次】」及び伊那新校の学校像について県教委より説明 ・質疑応答及び意見交換
2	令和３年 1 月 19 日	・講演「これからの高校に期待される学力」 上智大学総合人間科学部　教授　奈須正裕　氏 ・質疑応答及び意見交換 ・校地検討会議について県教委より連絡
3	令和３年 2 月 16 日	・学校紹介、新校に期待することについて両校生徒による発表 ・伊那新校の学びのイメージについて意見交換
4	令和３年 4 月 20 日	・探究的な学びの取組、新校の学びのイメージに向けた現在の取組について両校校長から報告 ・伊那新校の学びのイメージについて意見交換
5	令和３年 6 月 14 日	・「郷土愛プロジェクト」の取組（高校へのサポートの経過と現状、今後の構想と取組）について紹介、意見交換 ・伊那新校の学びのイメージ（学校生活、地域との関わり）について意見交換
6	令和３年 7 月 27 日	・伊那新校の学校像（たたき台）について意見交換 ・県立高校の「特色ある学科」について県教委より説明 ・松本県ケ丘高校探究科の現状報告と意見交換 ・校地検討会議報告 **検討項目や留意事項等、部会長から報告。校地の選定は県に一任する。**
7	令和３年 9 月 21 日	・伊那新校の学校像（伊那新校プロジェクトチーム案）について意見交換 内容：目指す学校像、育てる生徒像、設置学科、カリキュラム、地域連携・コンソーシアム ・上伊那地域の中学校卒業者数の推移と募集学級数について意見交換
8	令和３年 10 月 26 日	・伊那新校の学校像（伊那新校プロジェクトチーム案）について意見交換 内容：単位制、目指す学校像、育てる生徒像、地域連携・コンソーシアム ・統合の方法について意見交換
9	令和３年 11 月 30 日	・伊那新校の学校像（伊那新校プロジェクトチーム案）について意見交換 内容：キャッチフレーズ、目指す学校像、学科の名称、学びのイメージ ・校地選定についての意見交換 **伊那北高校の校地を活用するとともに、伊那弥生ケ丘高校第２グラウンドも有効に活用する**
10	令和３年 12 月 21 日	・再編実施基本計画の策定について県教委より説明 内容：新校の学びのイメージ、募集開始年度と想定募集学級数

令和４年２月７日	長野県教育委員会定例会にて伊那新校（仮称）再編実施基本計画が決定 ・募集開始（開校）年度 　令和 10 年度 ・活用する校地 　伊那北高等学校（併せて伊那弥生ケ丘高校第２グラウンド） ・設置課程・学科及び想定する募集学級数 　全日制課程　普通科６学級・特色学科２学級 ・伊那新校の学びのイメージ 　「探究」「単位制」「文理融合・教科横断型授業」「地域での協働した学び」
令和４年３月 15 日	長野県議会にて２校統合に対する議会同意

11	令和４年 ３月 28 日	・再編実施基本計画について県教委より説明 　定例会で決定した内容について、第 10 回懇話会からの修正も含め説明 ・今後のスケジュールについて県教委から説明
12	令和４年 ７月６日	・伊那北高校生徒による「将来の教育を考える意見交換会」実施報告 ・NSD プロジェクト（kick off シンポジウム、プロポーザル）について県教委より報告・説明 ・校名検討について意見交換
13	令和４年 10 月７日	・両校からの近況報告 ・NSD プロジェクトの進捗状況について県教委より報告 ・校名検討の今後の進め方について事務局より報告 　**教育内容や学びのイメージを共有することを重要視し、校名の公募については一旦先送りする** ・校名検討、伊那新校での学びについて意見交換
14	令和５年 １月 31 日	・NSD プロジェクトの進捗状況について県教委より報告 　内容：委託業務受託者の紹介、NSD 会議の設置
15	令和５年 ５月 26 日	・上伊那広域連合等からの要望の報告 ・伊那新校での探究的な学びについて事務局より説明 ・NSD プロジェクトの進捗状況について県教委、設計 JV より説明
16	令和５年 11 月２日	・学校での検討の進捗状況について新校設立準備委員会（教育課程小部会、生徒会小部会）より報告 ・NSD プロジェクトの進捗状況について設計 JV より施設整備基本計画の報告と基本設計で重視したいフレキシブルラーニングエリアについて説明 ・統合の方法について県教委より説明、意見交換
17	令和６年 ３月 13 日	・校舎整備及び開校時期・統合の方法について県教委の考え方を説明 　**新校舎は令和９年度着工、11 年度完成** 　**建設中は両校生徒が伊那弥生ケ丘高校で共に学ぶ** 　**一斉統合** ・NSD プロジェクトの進捗状況について設計 JV より説明 ・意見交換

18	令和６年 ９月 24 日	・前回懇話会からの経緯及び校舎整備等スケジュール３案を県教委より説明 ・伊那弥生ケ丘高校１学年ルーム長会から意見表明 →以下の案で進めていく **伊那北高校に仮設校舎を建設** **ローリング計画により新校舎を建設** **年次統合**
19	令和７年 ２月３日	・地域説明会について県教委より報告 令和６年 11 月～12 月に４回実施 ・芝国際中学校・高等学校視察について事務局より報告 ・今後のスケジュールについて県教委より説明

伊那新校（仮称）　開校までのスケジュール案（令和７年５月現在）

※校名については、正式には開校前年度に議会で決定する。それまでは（仮称）を付ける。

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
		旧第８通学区	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
		高校入学対象者数	1,634	1,686	1,546	1,567	1,545	1,538	1,567
		入学対象者数前年増減	-94	52	-140	21	-22	-7	29
		県議会				●校名の正式決定(条例改正)			
		教育委員会		●校名候補の決定※	●設置学科変更を承認	●募集学級数の決定	●開校式	●両校　閉校式	
		懇話会	校名募集要項 校名募集・選考・候補決定 学びに関する意見交換 教育課程案など学習内容の提示 新校準備委員会の各部会の進捗状況報告と意見交換			校歌・校章の提示			
学校生活		使用校舎	新入生 在校生 保護者 説明	仮設校舎 （Ⅰ期)引越	既存校舎＋仮設校舎(Ⅰ)	新校舎(西棟)・ 仮設校舎(Ⅱ期)引越	新校舎(西棟)＋仮設校舎(Ⅰ・Ⅱ)		新校舎 引越
学校生活		校舎整備		解体工事(Ⅰ) 仮設校舎(Ⅰ)建設	新校舎(西棟)建設 仮設校舎(Ⅱ)建設	解体工事(Ⅱ)	新校舎(南棟・東棟・小体育館)建設		外構工事 仮設校舎解体工事
伊那新校準備委員会		校名	校名募集 要項策定 校名 募集 校名選考 一次選考・二次選考 候補 決定						
伊那新校準備委員会		校歌・校章		校章制作期間 6～12ヵ月 校歌作曲期間 6～12ヵ月	決定 決定				
伊那新校準備委員会		総務	検討事項　［教務関係］　・在校生の学習保障　・入学者選抜への対応　・内規の整理　・校則の整理　・合同職員会 ・校務分掌の整理　・大規模行事の検討　・ICT関係(C4th含む)　・閉校行事 （各部会）　［生徒会関係］・制服・ジャージの検討　・クラブ活動（クラブの整理と活動場所の確保） ・生徒会組織の検討　・生徒会会則の整理　・生徒会会計の整理 ［渉外関係］　・PTA組織の検討　・PTA会計の整理　・同窓会 ［引越関係］・備品等の要否確認　・引越の予算確保とシミュレーション　→引越関係は前年予算				［同窓会関係］ ・事業の引継ぎ ［引越関係］ ・備品等の要否確認　・引越の予算確保とシミュレーション ・FLAやMC(メディアセンター)の新規備品検討　→　設計チームと検討		
伊那新校準備委員会		教育課程 学習指導	教育課程・学びの イメージ検討 ［教育課程の検討］ ・設置学科　・２学期制 or ３学期制　・日課の検討 ・くくり募集、前期選抜、後期選抜　・単位制 ・必履修科目（単位数の検討と決定） ・学校が定める必履修科目（科目、単位数の検討と決定） ・選択科目（科目、単位数の検討と決定）など ［学習指導の検討］ ・共学共創コンソーシアムの立ち上げ ・探究学習への取組み　・授業評価の検討　など 教育課程・学びの イメージ決定						
伊那新校準備委員会		広報	地域説明会 ４回開催 ホームページの開設・発信　地域説明会の実施　ステークホルダーへの広報 小中学校への広報活動	中学生への広報強化					
			解体・新築工事に関する地元説明会【県建設部施設課・高校再編推進室】→必要に応じて随時開催						

新校開校

伊那新校　選考の進め方及び観点（案）

選考の進め方	**別紙「伊那新校　校名決定の流れ（案）」参照** ❶公募 ・懇話会で選考の観点や公募方法等を提案し、意見交換を行った上で「校名募集要項」を決定し、実施する。 ・県教育委員会や伊那新校ホームページに公募結果や選考状況等を公表する。 ❷一次選考 ・県教育委員会事務局と設立準備委員会で、公募結果を参考にして校名案を数個にしぼる。 ❸投票 ・投票の対象となった校名案に対し、同校名、権利侵害等の調査を行う。 ・同校名、権利侵害等の調査結果を踏まえ、地域・両校の在校生と教職員・懇話会構成員による投票を行う。 ❹二次選考 ・県教育委員会事務局と設立準備委員会で、投票結果を参考にして校名候補を選考する。 ❺報告 ・懇話会で校名候補決定の経緯、理由等について報告する。
選考の観点	①校名は「長野県（　　）高等学校」とする。 ②学校の所在地がわかりやすく、親しみのあるものであることや、伊那北高等学校と伊那弥生ケ丘高等学校のこれまでの歴史や伝統などがイメージされるなど、生徒が誇りを持てる名称であること。
伊那新校について	学びのイメージや伊那新校に込められている想いなど、校名を考えるうえで参考になる情報を要項に記載する。
公募方法	1　期間：令和７年＿月＿日　～　令和７年＿月＿日（夏頃/1 カ月間程度） 2　内容：校名案と理由 3　方法：①インターネットを利用した応募（応募フォーム） ②郵送または持参
投票方法	1　期間：令和７年＿月＿日　～　令和７年＿月＿日（10 月頃/２週間程度） 2　内容：校名候補と理由など 3　方法：①インターネットを利用した投票（投票フォーム） ②郵送または持参

＜今後の流れ＞

・懇話会での意見交換を踏まえて県教育委員会事務局で「選考の進め方及び観点」について再検討

・検討結果を踏まえて募集要項を作成して募集を開始する

伊那新校　校名決定の流れ（案）

長野県教育委員会

これまでの校名選考の情報提供

設立準備委員会

「選考の進め方及び観点」等の検討

第20回懇話会（R7.5.13）

「選考の進め方及び観点（案）」、
「伊那新校校名募集要項（案）」について意見交換

「選考の進め方及び観点」、
「伊那新校校名募集要項」の修正

伊那新校「校名募集要項」の決定

夏頃

❶　校名募集の公募開始

応募された校名案の整理

同名校、権利侵害等の調査

❷　一次選考　校名案を数個にしぼる

10月頃

❸　地域・両校の在校生と教職員・懇話会構成員による投票

❹　二次選考　校名候補を決定

第21回懇話会（11月～12月）

❺　校名候補決定の経緯、理由等について報告

再編対象校の校長から具申

同名校、権利侵害等の調査

R8.3月or4月

教育委員会定例会で校名案の決定

R9.11月

県議会11月定例会で正式決定

伊那新校　校名募集要項（案）

1　目的

長野県伊那市に令和 10 年（2028 年）４月に開校する伊那新校（伊那北高校と伊那弥生ケ丘高校の統合校）について、長野県教育委員会が進める「新たな学校づくり」に多くの皆様の参画を目的に、新校の校名を募集します。

2　伊那新校の学校像

①学校所在地	長野県伊那市 2165（現在の伊那北高校の校地）
②開校年度	令和 10 年度（2028 年度）
③設置学科	普通科・特色学科
④募集学級数	８学級程度を想定（開校前年度に正式決定します）
⑤目指す学校像	**＊別添資料をご覧ください。**

3　校名選考の方法

○校名選考は５つのステップを経て進めていきます。

①公募

多くの皆様から広く校名を募集します。どなたでもご応募できます。特に、これから伊那新校で学ぶ皆様（小学生や中学生）、その保護者の皆様からのご応募をお待ちしています。自分が通学するかもしれない高校の名前を、自分で考えてみませんか。（詳細については「**６　応募の方法**」をご覧ください）

②一次選考

応募された校名ついて、県教育委員会事務局と設立準備委員会で同名の名称の有無、商標権の確認等の校名案の整理を行い、選考の観点に照らし合わせて、校名案を数個にしぼります。

③投票

地域、両校の在校生と職員、懇話会構成員による投票をおこないます。

④二次選考

投票結果や校名に込められた理由などを参考にして、県教育委員会事務局と設立準備委員会で校名候補を決定します。

⑤校名候補の決定

伊那新校再編実施計画懇話会で報告して、県教育委員会定例会で正式に決定します。

（注）あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではありません。

4　校名選考の観点

○校名候補を以下の観点で選びます。

①校名は「長野県（　　）高等学校」とする。

②学校の所在地がわかりやすく、親しみのあるものであったり、伊那北高校と伊那弥生ケ丘高校のこれまでの歴史や伝統などがイメージされたりするなど、生徒が誇りを持てる名称であること。

5　募集期間

令和７年_月_日（_）から令和７年_月_日（_）まで（郵送の場合は締切り当日の消印有効とします）

6　応募の方法

○以下の２つの方法で応募できます。

・インターネットを利用した応募・・・応募フォームから必要事項を入力してください。応募は１人１点。

・郵送または持参・・・募集要項の最終ページにある所定の応募用紙を使用してください。

○必要事項は以下のとおりです。　必要事項を満たさない応募は選定の対象外としますのでご注意ください。

① 校名案（必ずふりがなを記入してください）
② その校名とした理由
③ 氏名の他に、応募フォームからの場合はメールアドレス、郵送または持参の場合は電話番号
（団体で応募する場合は代表者の氏名、電話番号などの連絡先）
※匿名は不可です。ご注意ください。

○郵送先は以下のとおりです。

〒396-0026　長野県伊那市西町 5703　伊那弥生ケ丘高校　伊那新校 校名募集担当　宛

○持参する場合は、伊那北高校または伊那弥生ケ丘高校の事務室に届けてください。

○応募に際して以下の点にご注意ください。

・応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとします。
・応募にかかる費用は応募者の負担とし、応募用紙の返却はおこないません。
・公序良俗その他法令の定めに反するもの、誹謗中傷を含むものは応募できません。
・応募に際していただいた個人情報は校名選考以外には使用しません。
・決定された名称に関する一切の権利は長野県教育委員会に帰属するものとします。

7　問合せ先

○長野県教育委員会事務局 高校教育課 高校再編推進室まで以下のどちらかの方法でお問い合わせください。

・電話によるお問合せ　　電話番号 026-235-7452
　電話の際は「伊那新校の校名選考についての問合せ」であることをお伝えください。

・電子メールによるお問い合わせ　　E-mail　koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp
　メールの件名を【伊那新校　校名選考の問合せ】としてください。

伊那新校　校名募集　応募用紙（案）

①伊那新校の校名案 （ふりがなも記入してください。）	ながのけん 長野県　　こうとうがっこう 高等学校
②その校名とした理由	
③氏名・電話番号 （団体で応募する場合は、団体名と代表者氏名をご記入ください）	氏名 電話番号

【応募にあたっての注意事項】

・あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではありません。
・応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとします。
・公序良俗その他法令の定めに反するもの、誹謗中傷を含むものは応募できません。
・応募にかかる費用は、応募者の負担とします。応募用紙の返却は行いません。
・応募に際して記入いただいた個人情報は、学校名選定以外には使用しません。
・決定された名称に関する一切の権利は、長野県教育委員会に帰属するものとします。

【応募先】

〒396-0026　長野県伊那市西町 5703　伊那弥生ケ丘高校　伊那新校 校名募集担当　あて

【お問合せ先】

長野県教育委員会事務局 高校教育課高校再編推進室
電話番号　026-235-7452　E-mail　koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp

別添資料

伊那新校の学校像

自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦する高校

目指す学校像

○「探究」を核とした学びを通して、自己実現と社会貢献を目指す

○他者との協働を通して、多様な価値観を共有し人間性を育む

○自主的な活動や創造的な活動を通して、主体性を育む

新たな学びに対応したシステム

「探究」をベースにした教育活動

個別最適な学びを実現する“単位制”

文理融合した学び・教科横断型授業の展開

大学・研究機関・企業・自治体などと協働した学び

１年次：必履修科目を中心に履修

↓

２・３年次：自分の学びを自分でデザインし、履修する科目を選択

普通科

探究を核として持続的な学びを実現する学科

■地域課題を基に日本、世界に目を向け、これからの社会の核となる人の育成を目指す

◇地元自治体など、コンソーシアムとの連携による、ローカルな視点とグローバルな視点で行う探究活動

◇自らの興味関心や進路希望に応じて選択ができる多様な科目の設置

特色学科

高度な探究により、卓越した学びを実現する学科

■学問的真理を追究する意欲、社会の課題解決への挑戦心や使命感を持つ人の育成を目指す

◇大学・研究機関をはじめ、コンソーシアムとの連携による、応用的・発展的な探究活動

◇課題研究や先進的な探究を行う科目、高度な内容を扱う科目などの設置

連携・協働

上伊那共学共創コンソーシアム

多様な人々と学び合い、地域課題の解決や地域の活性化・イノベーションの創出を目指すコミュニティ

医療機関

大学

企業

自治体

国際機関

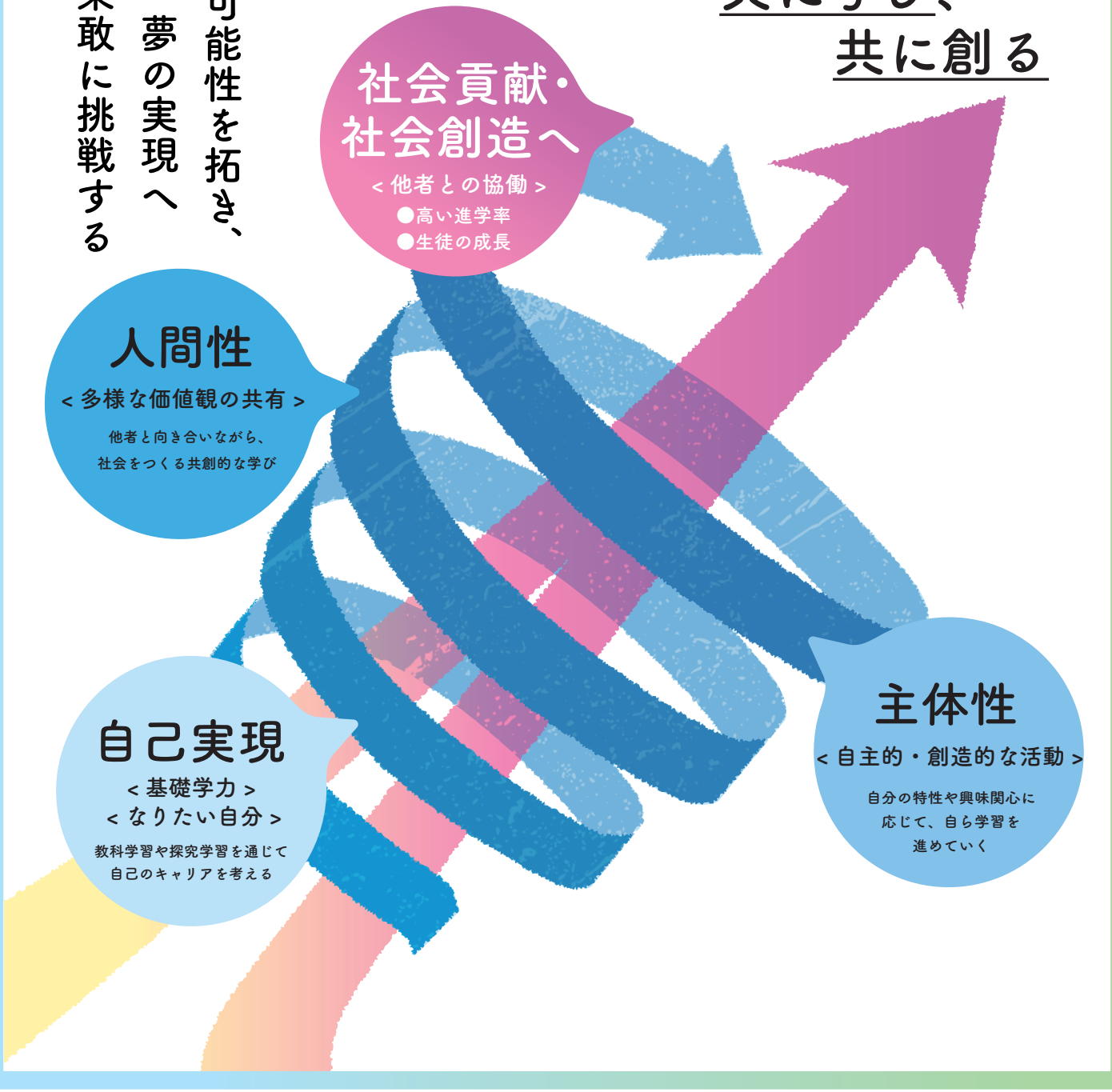
上伊那広域連合

等

令和10年、伊那新校（仮称）開校！

可能性を拓き、
夢の実現へ
果敢に挑戦する

共に学び、
共に創る



学びが大きく変わります

- くくり募集 → 入学してから学科が選べる（現在検討中）
- 単位制の導入 → 個別の進路に対応した学びの実践
- キャリアデザイン → 探究を核とする学びを通した進学・進路の実現
- 未来への探究 → 他者と連携し、自らの可能性を切り拓く
- 2校が統合 → 伊那北高校校地に新校舎を建設

新たな学びと成長に対応したシステム

●「探究」をベースにした教育活動　●大学・研究機関・企業・自治体などと協働した学び
●個別最適な学びを実現する「単位制」●文理融合した学び・教科横断型授業の展開

受検時の変革

くくり募集（検討中）

- 基礎学力
- なりたい自分
- 学ぶ意欲

くくり募集とは？

・入学時に普通科か特色学科かを選択しないで、一括して募集するものです。
・入学後に共通科目を学びながら自分の将来の進路と興味・関心、能力・適性を考えて、2年生に進級する前に学科を決定することができます。

くくり募集のメリット

個々の特性・学習進度など状況に応じた進路希望への細やかな個別対応や工夫が可能

自ら学習を進めるためのコンテンツ

1年	2年	3年
必履修科目を中心に履修	自分の学びを自らデザインし、履修科目を選択	

特色学科

学問の真理を追求する意欲や課題解決への挑戦心、使命感を育成する

将来の進路希望や適正を見極める

従来の学び

ミックスした学び

3年次には、週5h程度自由に授業を選べる　空きコマも可。自分の学びを探究

探究的プロセス

地域課題を基にグローカルな視点で探究学習を実践する

普通科

単位制を活かした個別最適な学び

理系　文理融合　文系

探究を核として持続的な学びを実現する

幅広い進路

ハイレベルな進路

多様な進路へのマッチング

- 最難関国公立大学
- 海外大学・留学
- 医学科
- 国公立大学
- 私立大学
- 短期大学
- 専門学校
- 起業
- 就職

大学入試では「一般選抜」だけでなく、学びの意欲を評価する「学校推薦型」「総合型」選抜での進学も十分可能。

進学型単位制による多様なモデル

・個別の進路に対応した学びと多様な「マッチング」
・少人数講座などの実現

連携・協働

上伊那共学共創コンソーシアム

医療機関　大学　企業　自治体　国際機関　上伊那広域連合

●普通科　探究を核として持続的な学びを実現する学科

地域課題を基に日本、世界に目を向け、これからの社会の核となる人の育成を目指す。
★地元自治体など、コンソーシアムとの連携による、ローカルな視点とグローバルな視点で行う探究活動
★自らの興味関心や進路希望に応じて選択ができる多様な科目（単位制）の設置

●特色学科　高度な探究により、卓越した学びを実現する学科

学問的真理を追求する意欲、社会の課題解決への挑戦心や使命感を持つ人の育成を目指す。
★大学・研究機関をはじめ、コンソーシアムとの連携による、応用的・発展的な探究活動
★課題研究や先進的な探究を行う科目、高度な内容を扱う科目などの設置

●個別最適な学びとは？

一定の目標を全ての子どもが達成することを目指し、異なる方法などで学習を進める「指導の個別化」。そして、異なる目標に向けて、学習を深め、広げる「学習の個性化」の2つに分けられます。伊那新校では生徒の興味・関心に応じて、個別の進路に対応した学びが進められるようなカリキュラムを検討しています。

●上伊那共学共創コンソーシアム

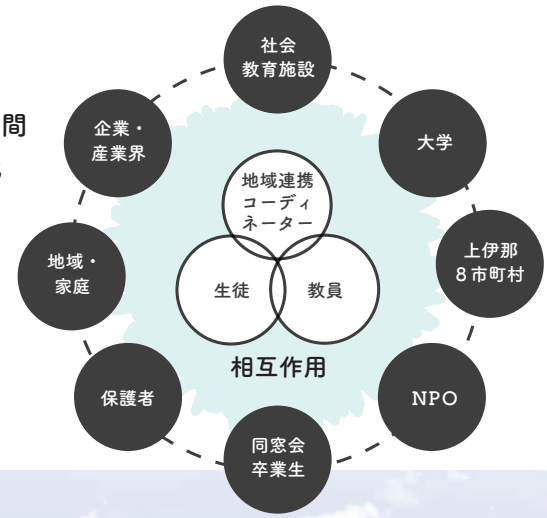
地域の様々なセクターと協働することで、学校の中だけでは実現できない実践に基づく多様な学びに取り組みます。地域とともに課題の解決や未来へのイノベーションを創出するコミュニティです。

●探究学習とは？

探究学習は、自ら問いを立てて、それに対して答えていく学習です。教科における、教師が立てた問いを生徒たちが正解を探すのではなく、自分自身で問いを立てて、その答えを出したいという「探究心」を大切にして、学習を進めていく方法です。

新校舎のポイント

- ●山並みの風景と調和し、生徒たちの活動を支える大屋根
- ●鳥や虫、植物も生息でき、自然と共生できる社会を目指す
  これからの子どもたちが、地域の自然の豊かさを感じられる屋外空間
- ●校舎の大部分を地域の木を多用した木造建築とし、CO_2 を固定化
  環境と地域経済の循環モデルとなる
- ●上伊那共学共創コンソーシアムの活動が円滑に進むように、
  来客は学校に来やすく、学校は受け入れやすい機能配置
- ●生徒の多様な学びをおおらかに受け入れ、多様な活動を展開
  しやすい内部空間
- ●全ての学びの礎となる学力を支える充実した講義室と特別教室

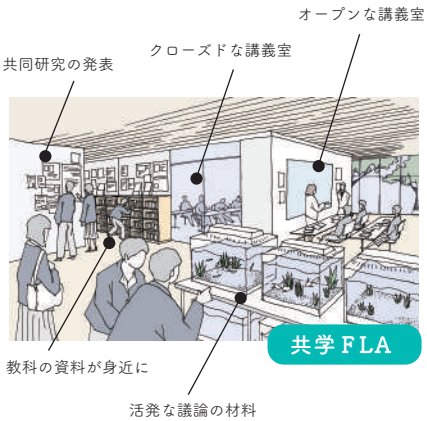


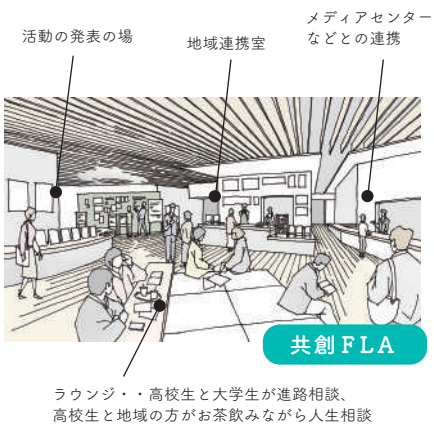
共に地域で学ぶコンソーシアム

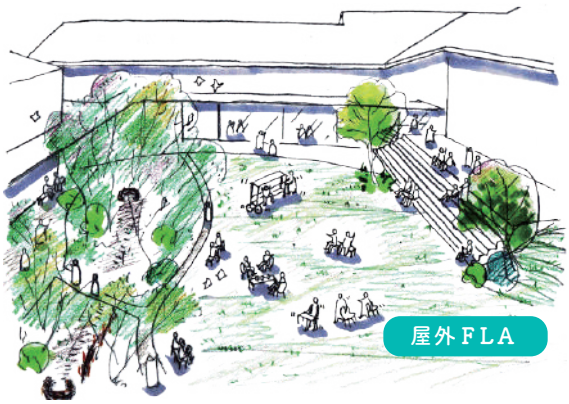
伊那谷の懐かしい未来

伊那谷を見渡せる丘の上に立つ伊那新校。上伊那を仲間と共に俯瞰し、地域を身近な材料として学び合い、実感し、自らの進路に活かす「新しい学び」を支える校舎となるために建築的な多くの提案を盛り込んでいます。

※図は基本計画時でのイメージです　※FLA＝フレキシブルラーニングエリアの略



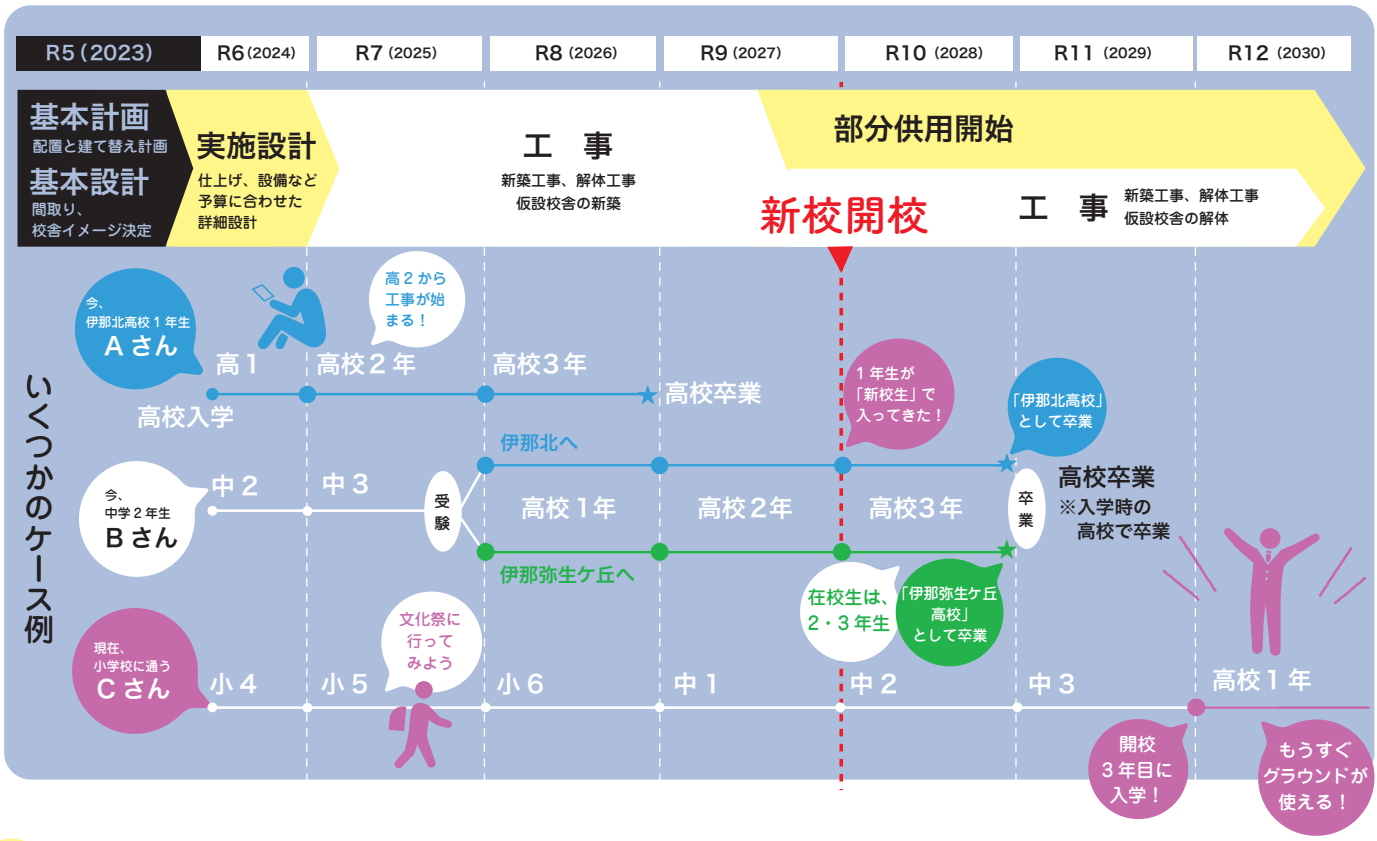




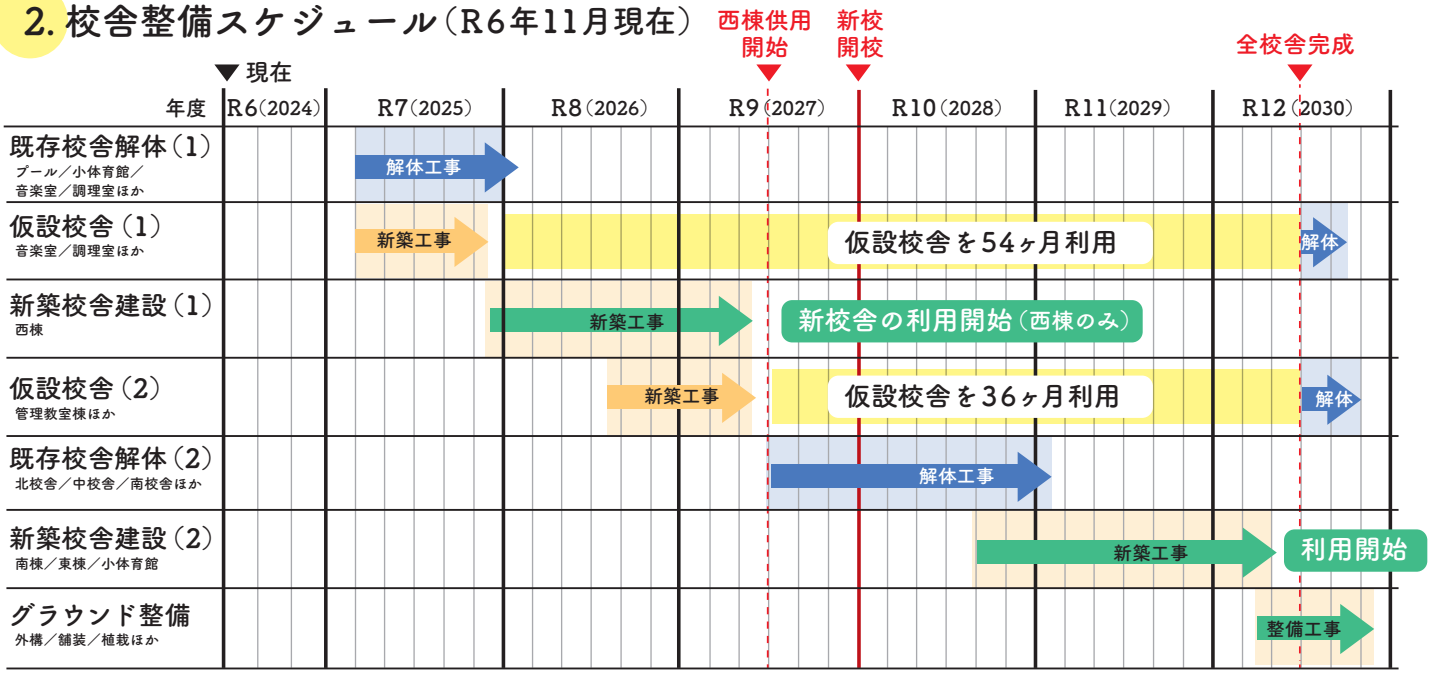
2校が統合し、伊那北高校校地に新校舎を建設

R10年度開校に向けて、伊那北高校校地ではR7年度から工事が始まります。校舎という目に見えるかたちで開校へ動きだすと同時に、学びのあり方も伊那新校（仮称）が目指す新しいvisionへと変化していきます。

1. 校舎整備に伴い、R6年度現在の高2から小4までの児童・生徒は校舎整備期間中の在学となります



2. 校舎整備スケジュール（R6年11月現在）



※上記スケジュールは検討中のものです

3. 工事中の各校の学びの特徴・施設整備の状況

伊那北高校
- ●新しい学びを取り入れる　●両校での部活動の協働
- ●グラウンドは使用できない
- ●工事あり ※
- ●R9年度より新校舎の一部が利用可能

伊那弥生ケ丘高校
- ●新しい学びを取り入れる
- ●両校での部活動の協働
- ●工事なし

※騒音・粉じん等対策を行いながら工事を行います

令和6年11月発行 / 長野県教育委員会事務局 高校教育課 高校再編推進室

伊那新校設立準備委員会　部会検討状況　（令和７年５月時点）

部会	検討項目		進捗状況・今後の予定
総務	①	校名募集	県教委と連携して公募の準備中
	②	学校目標・教育方針	原案作成中
	③	3つの方針・グランドデザイン	
	④	学科名	県教委と連携して原案作成中
	⑤	校歌・校旗・校章	検討中
	⑥	服装（含：制服）検討	
	⑦	入学者選抜方法	両校の現状を共有しながら検討中
	⑧	校務分掌	
	⑨	学校評価	
	⑩	学校評議員	
	⑪	開校式・閉校式の準備	県教委と協議を進める
教務	①	内規（履修・修得・卒業認定など）	今年度８月に両校の現状を確認しながら検討予定
	②	内規（成績処理・学籍管理・留学・考査）	
	③	学校行事（年間行事・修学旅行など）	
	④	新校のパンフレット	学校目標等決定後に作成
	⑤	日課や時間割	ＪＲの運行時間を勘案し検討
	⑥	クラス編成等	教育課程決定後に検討
	⑦	使用教科書	
教育課程	①	教育課程	ベースは作成できているので、特色学科決定後に修正予定
	②	単位制の導入	令和10年度の新校開校までに両校で単位制へ移行予定
	③	資格取得や外部連携機関の認定単位	検討中
	④	学校設定教科・科目の設置と申請	特色学科の決定後に申請予定
学習指導	①	総合的な探究の時間・課題研究の実施案	今年度秋を目途に検討して決定予定
	②	地域連携、大学・企業連携の連携先	教育課程及び総合的な探究の時間・課題研究の実施案等を踏まえ検討
	③	教科・学科横断型の学びの実施案	
	④	シラバス作成	
	⑤	LHR（ロングホームルーム）運営	
	⑥	授業評価の実施案	
進路	①	進路指導方針作成	両校の現状を共有しながら検討中
	②	進路講話・ガイダンスの実施案	
	③	外部テスト等の導入案	
	④	補習体制の実施案	
	⑤	進路相談体制	
生徒指導	①	生徒指導方針作成	両校の現状を共有しながら検討中
	②	生徒指導内規案	
特別支援	①	特別支援方針作成	本年度中を目途に方針・目標の作成
	②	ユニバーサルデザイン	
	③	特別支援体制（カウンセリング等）	
	④	研修体制	
生徒会	①	生徒会活動方針作成	学校目標等決定後に検討
	②	生徒会組織案作成	両校の現状を共有しながら検討中
	③	生徒会行事	
	④	生徒会規則（生徒手帳作成）・会計	
	⑤	部活動の活動方針	
	⑥	部活動の組織編制案	活動場所、部活数、部室等を精査して部活数の整理統合を検討
保健	①	保健情報管理方法	来年度夏休み前までの検討項目の洗い出し
	②	学校医・学校薬剤師の依頼	内科医２名（男女）、歯科医２名
	③	健康診断・健康管理	学校医決定後相談
	④	感染症予防対策	両校の現状を共有しながら検討中
	⑤	各種講演会の実施案	性教育と薬物乱用防止は実施予定（対象学年と時期、講師は検討中）
施設	①	解体工事にともなう引越計画の作成	９月からの工事着工に向けて作成中
	②	仮設校舎完成にともなう引越計画の作成	
	③	新校舎完成にともなう引越計画の作成	
	④	新校備品（初度調弁）調査	検討中
渉外	①	PTA組織との調整	両校の組織の現状を共有しながら検討中
	②	同窓会組織との調整	
広報	①	広報計画案の作成（小中、地域、在校生）	来年度の入学生に向けて説明ができるように準備
	②	新校ホームページ関係の作成・業者との打合せ	
MC（メディアセンター）	①	メディアセンター構想の作成	構想する部会を含めて検討中
	②	蔵書確認と廃棄、移設計画作成	現段階では蔵書確認（廃棄図書、移管図書の選定）まで検討
	③	視聴覚教材の管理マニュアルの作成	必要な場合は図書に準する扱いとする
事務	①	現管理対象物品の確認と廃棄	備品の精査
	②	新校で管理対象物品の確認	引越スケジュールに合わせて確認
	③	事務業務移行に関するマニュアルの作成	各校固有の事務業務の洗い出し